

# 平成21年度「全国学力・学習状況調査」における国東市の現状と今後の改善に向けて

## 調査の目的

- 本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況等の関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等を図る。

## 調査結果の取扱

- 本調査は、競争を目的とするものではなく、全ての子どもたちの学力や生活状況を把握し分析することにより、その改善を図るものとする。
- 本調査は、学習指導要領に示す内容がどの程度身につけているかを把握するものであり、対象になる学年や教科、出題範囲が限られている。
- 調査結果については、本調査により測定できる学力は、その一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。
- 本調査は、単なる学力調査とは異なり、生活習慣や学校環境と学力との関係も分析し、そのデータをもとに改善につなげるものである。

## 調査実施日

- 平成21年4月21日（火）

## 調査対象児童生徒

- 小学校6年生（291名）
- 中学校3年生（284名）

## 調査事項

- 国語A（主として「知識」に関する問題）
- 国語B（主として「活用」に関する問題）
- 算数・数学A（主として「知識」に関する問題）
- 算数・数学B（主として「活用」に関する問題）
- 児童・生徒質問紙（生活習慣や学習環境等に関する調査）

## 国東市の取組

今年度実施された「全国学力・学習状況調査」では、小学校において国語・算数がともに全国・大分県の平均正答率に達しておらず決して学力が高いといえない実態が明らかになりました。また、中学校においても、平均正答率は全国・大分県を上回っているものの、集団学習に適応できず、特別な教育的支援を必要とする生徒もみられ、今後一層学力向上に向けた取組を図る必要があります。

国東市教育委員会においては、これらの調査結果を多面的に分析し、明らかになった成果や課題、今後の改善方策を公表することにより、学校教育へのより一層の理解と、学校・家庭・地域それぞれの果たすべき役割を再度認識し、ともに一体となって本市の子どもたちを育てていくという意識を持っていただきたいと思います。今後の方向性として学習面では、知識等の基礎的な内容を7割、活用等の応用的な内容を6割以上の正答率をめざします。また、生活面では、それぞれの項目毎の表の中にめざすべき方向として目標値を位置づけています。

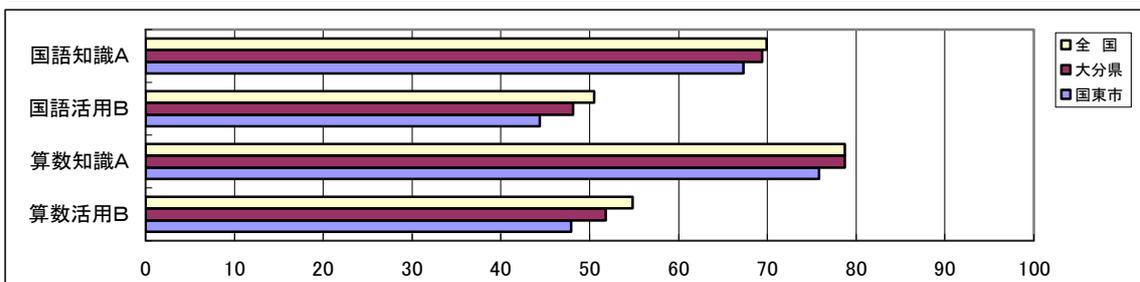
これからも、学校教育に携わる全ての方々とともに、より質の高い教育活動を創造することを通して、本市の子どもたちに知識・技能のみならず、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの「確かな学力」さらには「生きる力」の基盤となる「豊かな心」「健やかな体」の育成に努めていきます。

### 1. 学習面の実態及び課題

#### (1) 「全国学力・学習状況調査」

##### 【小学校6年生】

| 平均正答率      | 6年国語        |             | 6年算数        |             |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|            | 知識A         | 活用B         | 知識A         | 活用B         |
| 全国         | 69.9        | 50.5        | 78.7        | 54.8        |
| 大分県        | 69.4        | 48.1        | 78.7        | 51.8        |
| <b>国東市</b> | <b>67.3</b> | <b>44.4</b> | <b>75.8</b> | <b>47.9</b> |



- 小学校の国語、算数ともに全国及び県平均正答率よりも低い。特に、「活用B」については、全国平均よりも6ポイント以上下回っている。

今後、国語の「知識A」については、文章の中で漢字を書く活動やローマ字の学習、一文を二文の構成に書き換える学習（接続語の適切な活用）、表現の工夫を読み取る学習、自分の考えを決められた字数で記述する学習などが必要である。

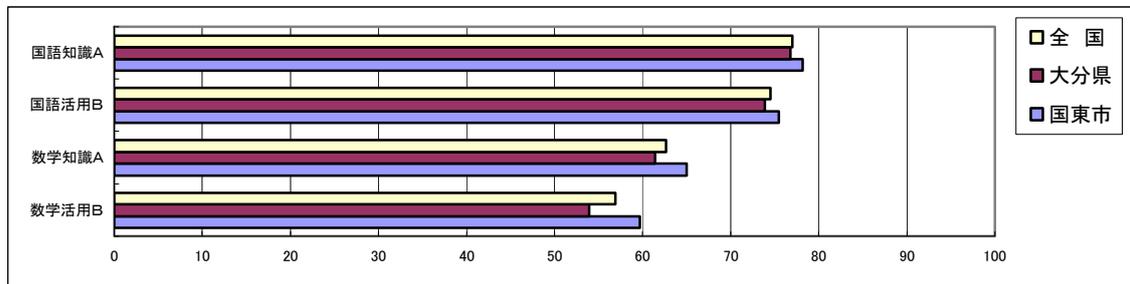
「活用B」では、問題の趣旨に添って必要な事柄を関連づけて整理する学習、筆者の考えを自分の言葉で書き換えたり要約したりする学習などが必要である。

算数の「知識A」については、小数の除法計算や四則計算の混合した計算の習熟を図る学習、数の構成や順序の理解を図る学習、角度や面積を求める学習、割合や百分率を求める学習の定着を図ることが必要である。

「活用B」では、資料を基に筋道を立てて考え、条件を整理しながら求める学習や条件を変えた図形で面積が等しいことの原因を考える学習、計算結果の根拠となる考えを説明する学習などが必要である。

【中学校 3 年生】

| 平均正答率 | 3年国語 |      | 3年数学 |      |
|-------|------|------|------|------|
|       | 知識 A | 活用 B | 知識 A | 活用 B |
| 全 国   | 77.0 | 74.5 | 62.7 | 56.9 |
| 大分県   | 76.8 | 73.9 | 61.4 | 53.9 |
| 国東市   | 78.2 | 75.5 | 65.0 | 59.7 |



■ 中学校の国語・数学において教科全体では「知識 A」「活用 B」ともに全国及び県平均正答率よりも上回っているが、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国平均を下回っている。

今後、国語の「知識 A」については、話の内容から必要な情報を的確に聞き取る学習や自分とは異なる立場の意見を取り入れて説得力のある文章を書く学習、語句の意味を理解し文章の中で適切に使う学習などが必要である。

「活用 B」については、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる学習や文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書く学習、文書と補助資料との関係を理解し、読み取る学習などが必要である。

数学の「知識 A」については、文字式の意味を読み取る学習や分数を含む一元一次方程式を解く学習、扇形の面積を求める学習、図形や角の証明の学習、反比例や一次関数の学習などが必要である。

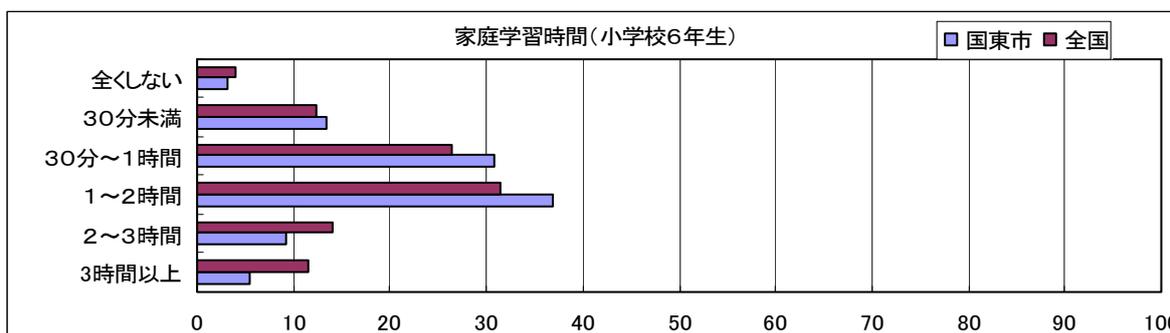
「活用 B」では、事柄が一般的に成り立つ理由を筋道を立てて説明する学習や表から必要な情報を読み取る学習などが必要である。

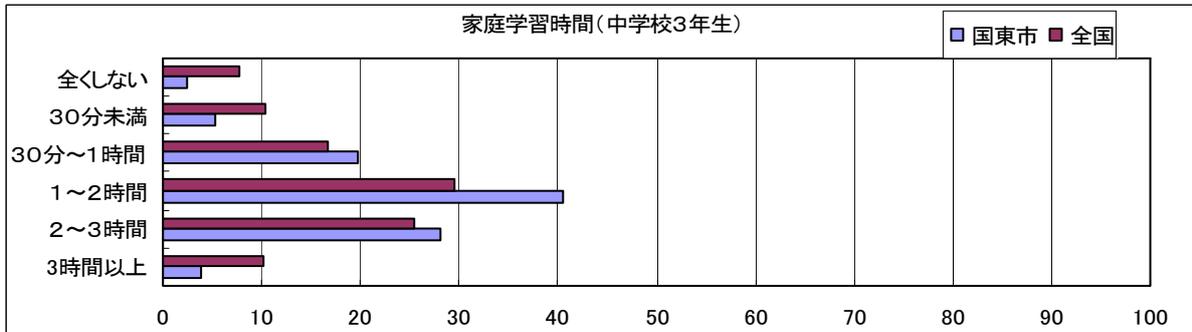
## 2. 生活面の実態及び課題

### (1) 家庭学習時間

平成 21 年度全国学力・学習状況調査より ( ) は全国

| 小学校 6 年生の現状 |               |       | 中学校 3 年生の現状 |               |       |
|-------------|---------------|-------|-------------|---------------|-------|
| 現状          | 割合            | 目標値   | 現状          | 割合            | 目標値   |
| 全くしない       | 3.1% (4.0%)   | 0%    | 全くしない       | 2.5% (7.7%)   | 0%    |
| 30分未満       | 13.4% (12.3%) | 0%    | 30分未満       | 5.3% (10.3%)  | 0%    |
| 30分以上 1時間未満 | 30.9% (26.4%) | 20.0% | 30分以上 1時間未満 | 19.7% (16.6%) | 10.0% |
| 1時間以上 2時間未満 | 36.8% (31.5%) | 50.0% | 1時間以上 2時間未満 | 40.5% (29.6%) | 30.0% |
| 2時間以上 3時間未満 | 9.3% (14.1%)  | 20.0% | 2時間以上 3時間未満 | 28.2% (25.5%) | 50.0% |
| 3時間以上       | 5.5% (11.6%)  | 10.0% | 3時間以上 4時間未満 | 3.8% (10.2%)  | 10.0% |





■ 小学校では、30分未満の児童が全国に比べると多い傾向にある。また、全くしない児童もいる。中学校では1時間～2時間の生徒が多いが、3時間以上の生徒が少ない。学ぶ習慣をつけるためにも家庭学習を生活リズムの一つとして位置づけることが必要である。

<指導のポイント>

○小学校 1日平均

低学年 30分 ~ 1時間  
 中学年 1時間 ~ 1時間半  
 高学年 1時間半 ~ 2時間

○中学校 1日平均

1年生 2時間 ~ 2時間半  
 2年生 2時間 ~ 2時間半  
 3年生 2時間半 ~ 3時間

- ・学習する時刻、時間、場所の設定
- ・学習に集中できる環境づくり（「ながら勉強」はしない）

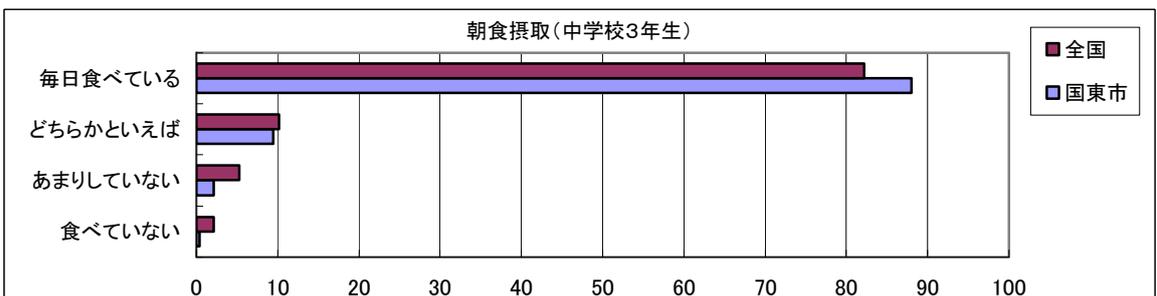
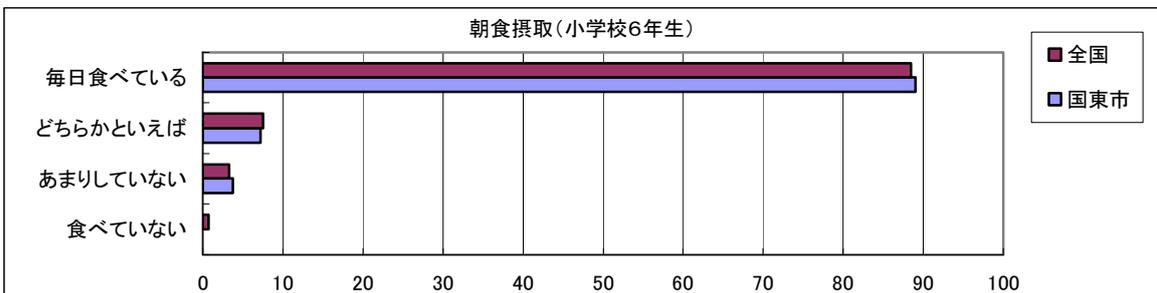
各学年の学習時間は、「めやす」として示している。「学ぶ」習慣の定着のために根気強くつけていくよう指導することが大切である。

家庭学習は、その時間の長さだけでなく、内容・仕方によって効果が異なることについても指導することが大切である。各学校は、「家庭学習の手引き」等を作成し、児童生徒自らが学習に取り組むことができるよう学び方を指導していくことが必要である。

(2) 朝食摂取

平成21年度全国学力・学習状況調査より ( ) は全国

| 小学校6年生の現状 |               |       | 中学校3年生の現状 |               |       |
|-----------|---------------|-------|-----------|---------------|-------|
| 現状        | 割合            | 目標値   | 現状        | 割合            | 目標値   |
| 毎日食べている   | 89.0% (88.5%) | 90.0% | 毎日食べている   | 88.0% (82.2%) | 90.0% |
| どちらかといえば  | 7.2% (7.5%)   | 10.0% | どちらかといえば  | 9.5% (10.2%)  | 10.0% |
| あまりしていない  | 3.8% (3.3%)   | 0%    | あまりしていない  | 2.1% (5.3%)   | 0%    |
| 食べていない    | 0.0% (0.7%)   | 0%    | 食べていない    | 0.4% (2.1%)   | 0%    |



■ 学習効果を上げるために大切なことの一つとして「朝食をしっかりとる」ことが大切である。文部科学省は、状況調査の結果より、「朝食をとらずに登校した子どもは、朝食を必ずとって登校する子どもより、得点が低い結果が出ており、基本的な生活習慣が身についていると伺える児童生徒は、得点が高い傾向にある。」という分析をしている。また、成長期にある児童生徒の脳の発達のためには、バランスのとれた栄養を摂取することが大切だとも言われている。学ぶための土台として「しっかりとした朝食」を家庭の責任で取らせることが大切である。

<指導のポイント>

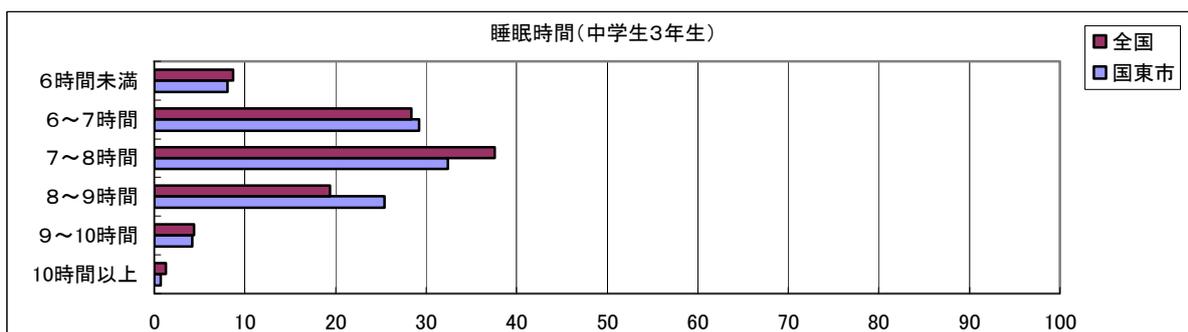
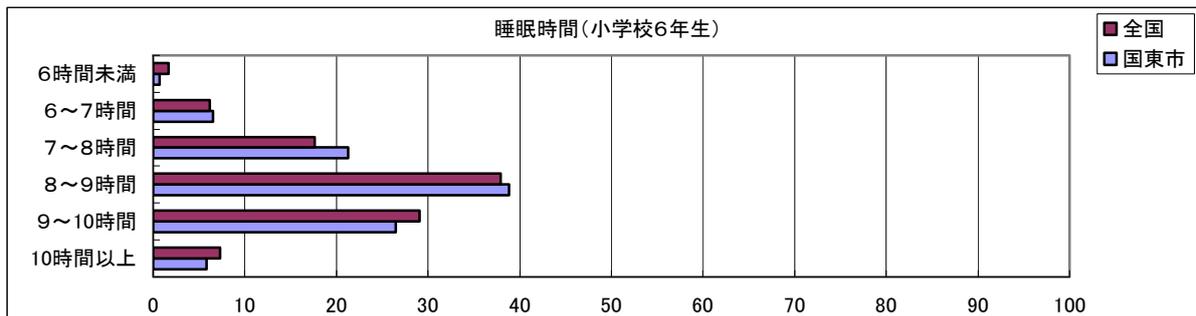
- ・朝食を毎日とる習慣（主食とおかずを食べる朝食）
- ・朝食をとる時間を考えた起床時刻の設定

学校は、しっかりとした朝食をとることの大切さを根気強く指導することが大切である。しかし、家庭によっては、そのことが大きな負担となる場合も考えられる。家庭の状況等に十分配慮し、教育的指導を行なっていくことが必要である。

(3) 睡眠時間

平成21年度全国学力・学習状況調査より（ ）は全国

| 小学校6年生の現状   |               |       | 目標値 | 中学校3年生の現状   |               |       | 目標値 |
|-------------|---------------|-------|-----|-------------|---------------|-------|-----|
| 6時間未満       | 0.9% (1.7%)   | 0%    |     | 6時間未満       | 8.1% (8.7%)   | 0%    |     |
| 6時間以上7時間未満  | 6.7% (6.2%)   | 10.0% |     | 6時間以上7時間未満  | 29.2% (28.4%) | 20.0% |     |
| 7時間以上8時間未満  | 21.3% (17.6%) | 20.0% |     | 7時間以上8時間未満  | 32.4% (37.6%) | 50.0% |     |
| 8時間以上9時間未満  | 38.8% (37.9%) | 50.0% |     | 8時間以上9時間未満  | 25.4% (19.4%) | 30.0% |     |
| 9時間以上10時間未満 | 26.5% (29.1%) | 20.0% |     | 9時間以上10時間未満 | 4.2% (4.5%)   | 0%    |     |
| 10時間以上      | 5.8% (7.3%)   | 0%    |     | 10時間以上      | 0.7% (1.3%)   | 0%    |     |



■ 小学校で6時間未満の児童が少数ではあるが、学習効果を上げるために大切なことのひとつに睡眠時間がある。就寝時刻が遅いと、起床時刻も遅くなり、朝食をとることができないなどの結果にもつながる。帰宅後の生活リズムを確立し、適切な睡眠時間をとるよう指導していくことが大切である。

<指導のポイント>

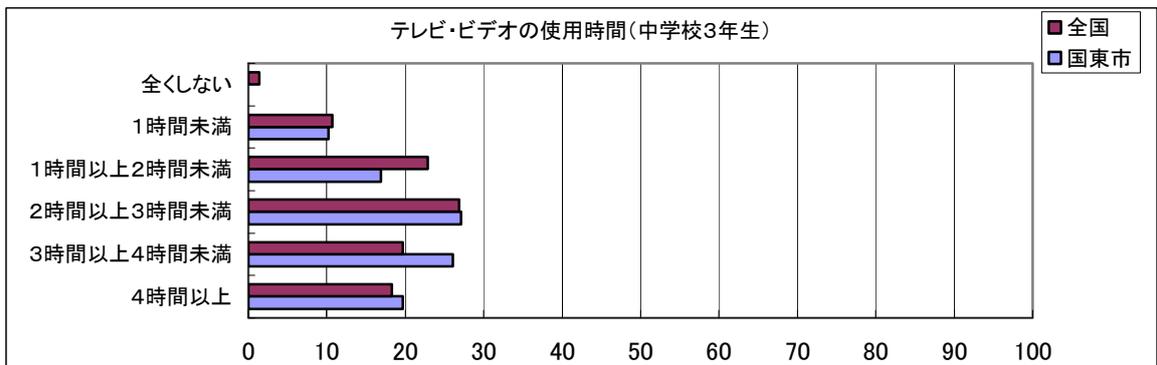
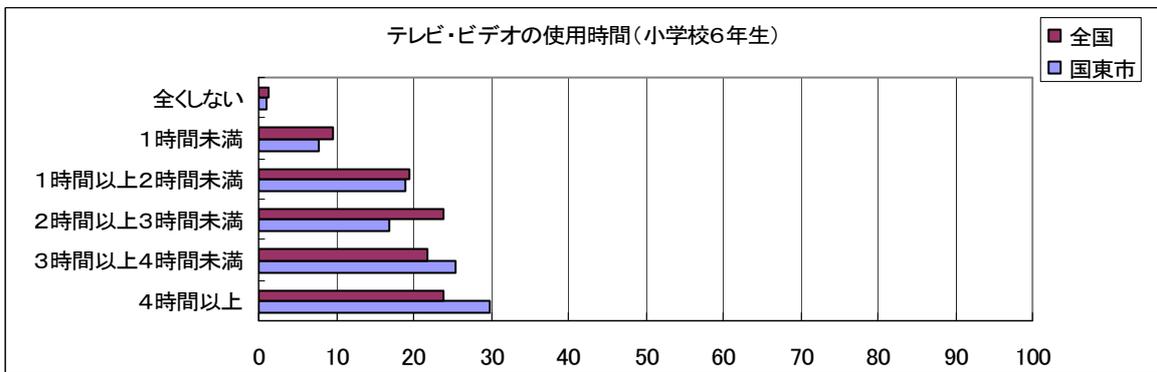
○睡眠時間・就寝時刻のめやす

- |                        |                          |                        |
|------------------------|--------------------------|------------------------|
| ・小学生の睡眠時間<br>8時間 ~ 9時間 | ・小学生の就寝時刻<br>午後9時 ~ 10時  | ・小学生の起床時刻<br>午前6時 ~ 7時 |
| ・中学生の睡眠時間<br>6時間 ~ 8時間 | ・中学生の就寝時刻<br>午後11時 ~ 12時 | ・中学生の起床時刻<br>午前6時 ~ 7時 |
- ・就寝時刻を考えた帰宅後の生活リズムづくり

睡眠不足は、授業への集中力を減退させ、学力の向上の妨げになるばかりではなく、体内時計が狂い、通常乗り越えられる課題も乗り越えることができなくなるといわれている。また、成長期の子どもたちにとって睡眠は単なる休養ではなく、脳を成長させる大切な時間でもある。常に、心と頭と体がスッキリした状態でいられるよう、規則正しい生活リズムを維持することの大切さを指導していくことが必要である

(4) テレビ・ビデオの使用時間 平成21年度全国学力・学習状況調査より ( ) は全国

| 小学校6年生利用時間の現状 |               |       | 中学校3年生の利用時間の現状 |               |       |
|---------------|---------------|-------|----------------|---------------|-------|
|               |               | 目標値   |                |               | 目標値   |
| 全くしない         | 1.0% (1.3%)   | 0%    | 全くしない          | 0% (1.4%)     | 0%    |
| 1時間未満         | 7.9% (9.5%)   | 20.0% | 1時間未満          | 10.2% (10.7%) | 20.0% |
| 1時間以上2時間未満    | 18.9% (19.6%) | 50.0% | 1時間以上2時間未満     | 16.9% (22.9%) | 50.0% |
| 2時間以上3時間未満    | 16.8% (23.8%) | 20.0% | 2時間以上3時間未満     | 27.1% (26.9%) | 20.0% |
| 3時間以上4時間未満    | 25.5% (21.7%) | 10.0% | 3時間以上4時間未満     | 26.1% (19.7%) | 10.0% |
| 4時間以上         | 29.9% (24.0%) | 0%    | 4時間以上          | 19.7% (18.3%) | 0%    |



■ 小学校段階で3時間以上テレビ・ビデオ等を使用している児童の割合が高い。平成17年度の文部科学省の調査によれば『テレビ・ビデオやゲーム、携帯電話、パソコンを使用する時間が長いほど就寝時刻が遅くなる、他者と交流する割合が少ない、疲れを訴える割合が多い』ということが報告されている。使用する時間を含めてテレビ・ビデオ、ゲーム、携帯電話、パソコンの使用時のルールを決めるよう指導することが大切である。

- <指導のポイント>
- 使用する時間の決定 (小・中学生)
    - ・1日 1時間 ~ 2時間以内
  - その他
    - ・使用時間帯のルールを決める。
    - ・読書に親しむ時間の設定

学校は、定期的に「テレビやゲームにふれない日」を決めることなどの家庭での取組を指導していくことが大切である。テレビ・ビデオ、ゲーム、パソコン等を長時間使用することは、学習時間や睡眠時間を不足させることにつながり、生活リズムを崩す大きな要因になっている。また、使用する時間だけでなく、望ましい利用の仕方についても指導していく必要がある。あわせて読書に親しむ時間を増やすこと大切さを指導していくことも必要である。

### 3. 「学力向上」を支える3つの柱

#### (1) 基礎・基本を確実に習得する

～新たに学んだ知識や技能を確実に身につけさせる～

「読み・書き・計算」など、学習を進める上で必要な力はもとより、学習活動の中で学んだ内容について十分に定着させ、活用することができるように、これまで以上に繰り返し指導や学び直しの時間を設定し、児童生徒の側に立った指導の工夫改善を図る。さらに、授業中での形成評価、授業後の自己評価・相互評価、単元終了後の観点別評価等を実施し、個の伸びや課題を的確に把握するとともに事後指導を充実させ、基礎・基本を確実に習得できるようにする。

#### (2) 主体的に学ぶ意欲や態度を身につける

～自分の身につけた力を確かめようとする意欲や態度、学習習慣を身につけさせる～

児童生徒が日常生活の中で、学習時間を増やす等学習に取り組む機会や場を豊かにし、進んで学習できるようにする。また、家庭においても計画的に予習や復習が行なえる環境を工夫することなどを通して、学習したことが身についたかを振り返ったり学習したことを更に深めたりするとともに、学習したことを自ら活用しようとする態度を身につけることができるようにする。

#### (3) 日常生活を充実する

～学校・家庭・地域間で「確かな学力」について十分な共通理解を図り、児童生徒の学力や学習・生活状況を共有し、それぞれの機能を十分に発揮させる～

児童生徒の学習・生活状況について理解を深め、課題となっている点を把握し、児童生徒に身につけさせたい学力や学校が取組もうとしている方策について共通理解を図り、児童生徒の学力向上をはじめ日常生活の充実につながるよう、それぞれの役割を十分発揮できるようにする。

#### 学力向上に向けた具体方策

##### <教育委員会の取組>

- 学校の意欲的な取組や具体的な学力向上策を引き出す工夫改善
- 学校の「学力向上プラン」を実効性のあるものとする工夫改善
- 学力向上戦略支援事業や授業力向上支援事業の研究指定を受けている国東小学校・国東中学校の取組を各学校へ紹介
- 国東市の「学力向上推進計画」を公表し、家庭や地域に児童生徒の学力を伸ばすため学校と一体となった取組を呼びかける工夫

##### <学習指導>

- 学習意欲の向上、学習習慣の確立
- 知識・技能の確実な定着
- 知識・技能を活用し課題を解決する能力の育成
- 豊かな体験活動の充実
- 個に応じた指導法の工夫改善

学校における具体方策の例

教育委員会における具体方策の例

学力向上推進計画

家庭への取組の例

学校における具体方策の例

##### <学校経営>

- 児童生徒に確かな学力を身につけさせる教育課程の工夫改善
- 効果的・効率的な指導体制の確立
- 確かな学力を育む研修体制の確立
- 主体的な学習習慣の確立を支援する家庭との連携

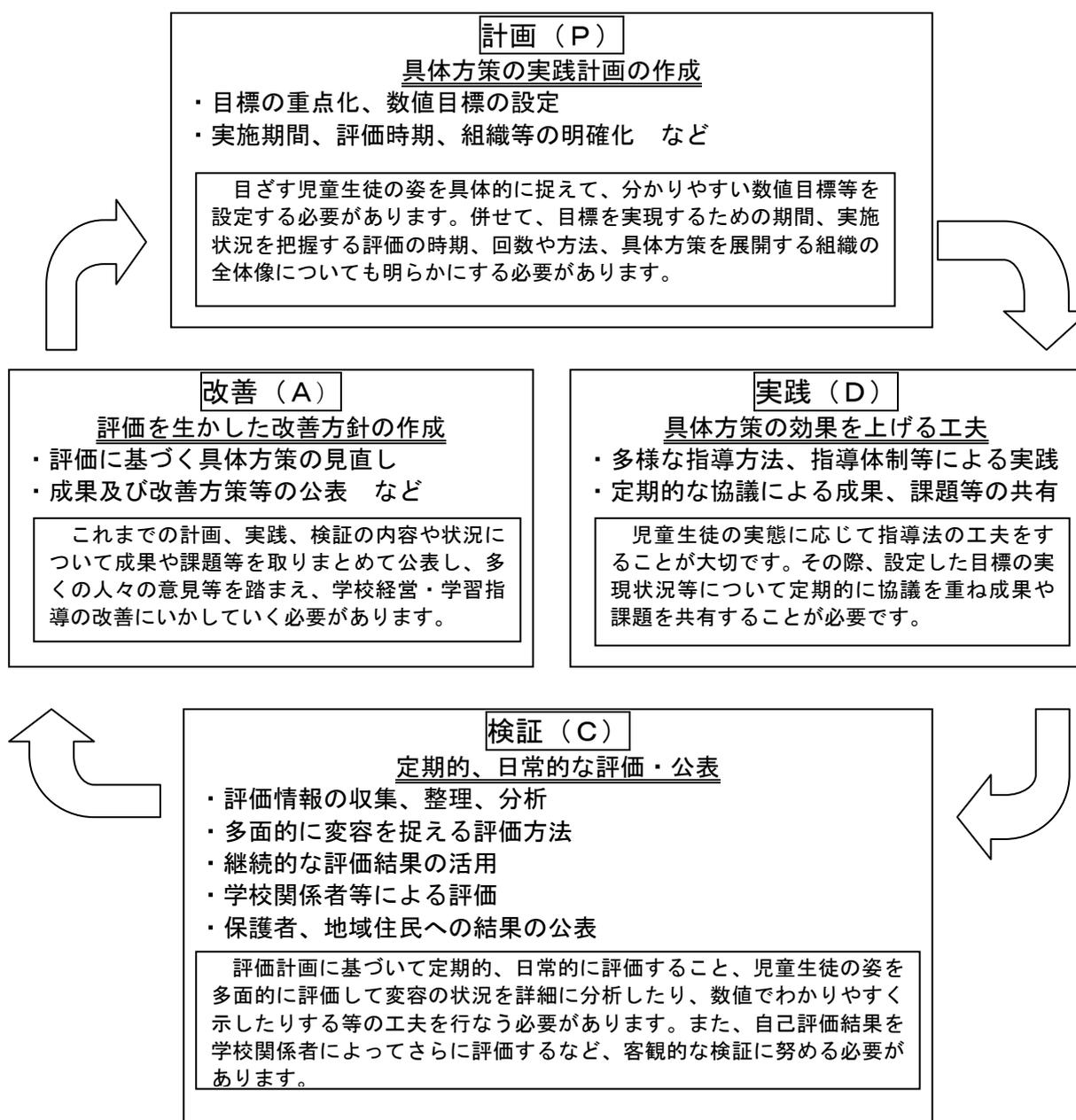
##### <家庭・地域の取組>

- 望ましい生活習慣の定着
- 発達段階に応じた家庭学習や読書習慣の定着
- 学校・家庭との連携した研修（PTA活動等）や授業参観への積極的参加
- 環境整備や学習をサポートするための支援（地域人材の活用）

## 学力向上に向けた具体方策を効果的に展開するための検証改善サイクル

各学校が学力向上のための実効性のある取組を展開するためには、その結果等を活用・分析しながらこれまでの取組の成果を検証し、課題を明らかにして改善につなげるという教育活動の検証改善サイクルを確立することが大切です。

各学校は、マネジメントサイクルの機能を発揮しながら、各種学力調査の結果を効果的に活用し、結果等の分析から明らかにした改善方策等を次のように展開して、検証改善を図るようする必要があります。



発行

国東市教育委員会 学校教育課

〒873-0503

国東市国東町鶴川 160-2

TEL 0978-73-0066

FAX 0978-73-0067

E-mail gakkou-kyoiku@city.kunisaki.lg.jp